

令和4年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(後期日程)

小 論 文

(地域学部 地域学科 国際地域文化コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2ページ、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚である。
指示があってから確認すること。
3. 解答は解答用紙（縦書き）に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

この部分については、著作権の関係上、HPで公開しておりません。

この部分については、著作権の関係上、HPで公開していません。

注1 井上ひさし 日本の小説家、劇作家。一九三四年～二〇一〇年。

注2 明治七年は、正しくは一八七四年であるが、原文のままにしている。

〔出典〕渡部泰明ほか『国語をめぐる冒険』（岩波ジュニア新書 二〇二二年）

※設問の都合上、原文の一部を省略し、注を付した。第五章の筆者は仲島ひとみである。

問一 傍線部「言文一致」の運動について、本文の内容からその背景をふまえて、200字以内で説明しなさい。

問二 本文の論旨に則して、標準語の制定がもたらした二つの側面をまとめ、それに対するあなたの考えを800字以内で述べなさい。